

TOTO

基礎貫通キット


商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容にそって正しく取り付けてください。



1 安全上の注意 (安全のために必ずお守りください)


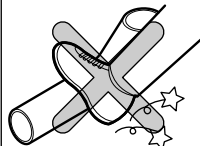
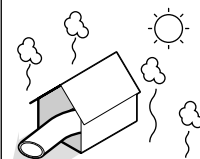
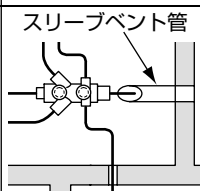

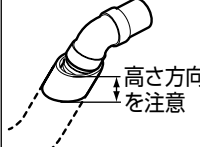
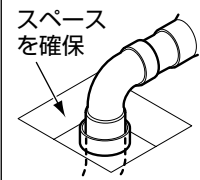
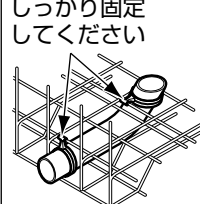
取付け前に、この「安全上の注意」をよくお読みの上、正しく取り付けてください。

●この説明書では商品を安全に正しく取り付けいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。


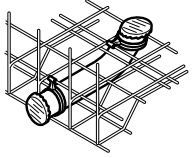
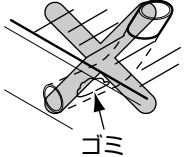
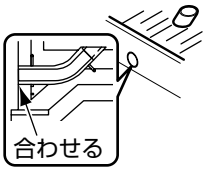
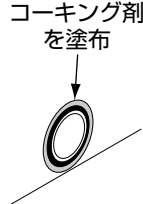
●お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

表示	意味
 注意	この表示の欄の内容を無視して誤った取扱いをすると、傷害又は物的損害が発生する可能性があることを示しています。

	してはいけない「禁止」内容です。
	必ず実行していただく「強制」内容です。

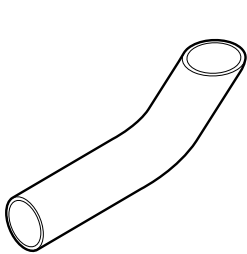
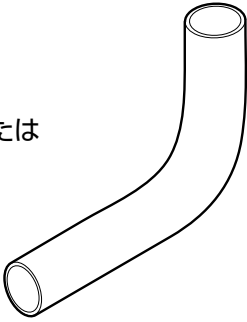


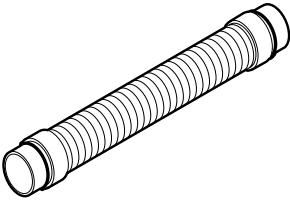

⚠ 注意		
	<p>商品を踏みつけたり、上に物を落としたりしないでください。 商品を踏みつけたり、物を落としたりすると、割れや破損により水漏れの原因となります。</p>	
	<p>商品の保管は必ず屋内で保管し、直射日光(紫外線)や高温となる場所は避けてください。 商品を高温となる場所に保管すると、変形や劣化により水漏れの原因となります。</p>	
	<p>スリーブバンド管設置位置の確認は必ず行ってください。 位置が違うと、排水ヘッダーが取り付けられない場合や、配管の勾配が取れなくなる場合があります。</p>	<p>スリーブバンド管</p> 
	<p>高さ方向の取り合いには十分気をつけてください。 高さ方向が高くなりすぎると配管の勾配がとれなくなり、床下内に排水ヘッダーが設置できなくなる可能性があります。</p>	 <p>高さ方向を注意</p>
	<p>配管施工時に大曲がりエルボを使用する場合、基礎高が低いと大曲がりエルボを収容できません。土間面を掘り下げスペースを確保してください。 スペースを確保せずに施工すると、排水ヘッダー本体の位置が高くなりすぎ勾配確保が困難になることがあります。</p>	<p>スペースを確保</p> 
	<p>スリーブバンド管の設置時、コンクリート打設により、位置ずれしないよう、しっかり固定してください。 位置ずれしてスリーブバンド管が傾くと、排水ヘッダーが取り付けられない可能性があります。また、商品の性能が発揮されないことがあります。</p>	<p>しっかり固定してください</p> 

⚠ 注意

 必ず実行	<p>スリーブバンド管の内部にコンクリートが流れ込まないように、養生は確実に行ってください。 コンクリートが内部に流れ込むと、排水可とう管が挿入できなくなることがあります。</p>	
	<p>スリーブバンド管内にごみがないことを確認してください。 排水可とう管が通管できなくなることがあります。</p>	
	<p>取付け基礎面と排水可とう管の端面を合わせてください。 位置がずれると排水ヘッダーが取り付けられない可能性があります。</p>	
	<p>基礎貫通部の止水処理は必ず行ってください。 正しく処理を行わないと、水、シロアリ、害虫などが侵入してくる可能性があります。</p>	<p>コーキング剤を塗布</p> 

2 梱包明細

次の部品があることを確認してください。

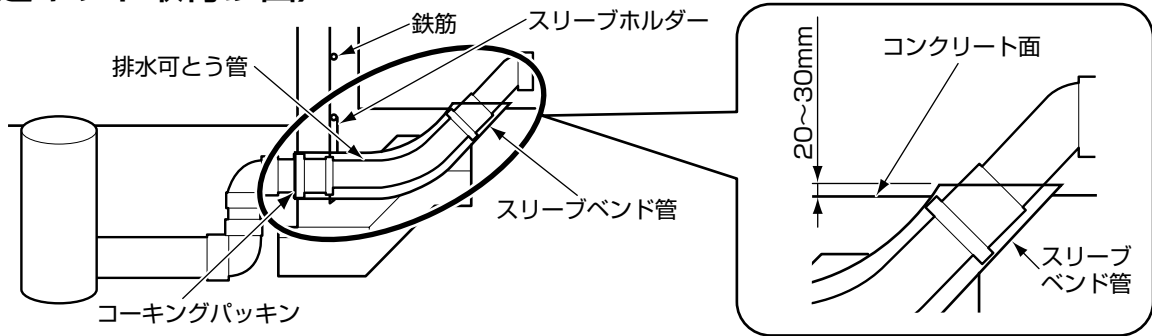
基礎貫通キット	スリーブバンド管	<p>スリーブバンド管(1個)</p> <p><深基礎タイプ></p>  <p>または</p>  <p>スリーブホルダー(2個)</p> 	<p>施工説明書(1枚)</p> 
	排水可とう管	<p>排水可とう管</p>  <p>コーキングパッキン</p>  <p>呼径100には、コーキングパッキンは含まれていません。</p>	

3

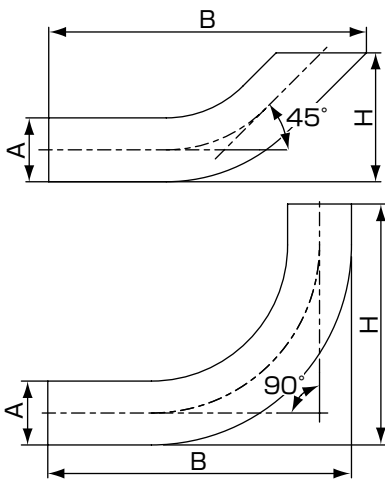
部品の確認

「基礎貫通キット」には下記の種類があります。(基礎貫通キットを使用する場合)

〈基礎貫通キット取付け図〉



スリーブバンド管

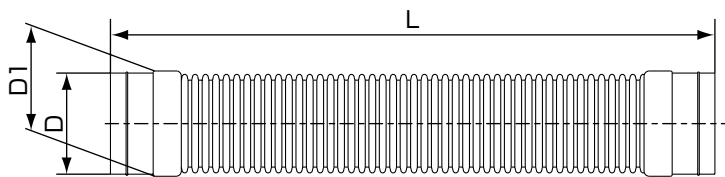


用途	呼径×タイプ	H	A	B
50排水用	50×H230	230	φ89	551
	50×H280	280	φ89	541
75排水用	75×H230	230	φ114	567
	75×H280	280	φ114	559
100排水用	100×H250	250	φ140	668
	100×H300	300	φ140	647

用途	呼径×タイプ	H	A	B
深基礎用	50×H430	430	φ89	530
	75×H430	430	φ114	542
	100×H600	600	φ140	600

スリーブバンド管には排水用として上記の9タイプがあります。基礎形状に合わせて選択します。

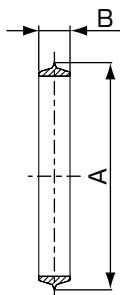
排水可とう管



呼径	L	D	D1
50	580	φ67	φ78
	730	φ67	φ78
75	580	φ97	φ101
	730	φ97	φ101
100	700	φ124	φ128
	900	φ124	φ128

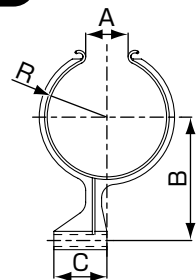
呼径50、75、100用がありそれぞれ長さ違いの2タイプあります。(計6タイプ)

コーキングパッキン



呼径	A	B
50	φ84	15
75	φ109	15

スリーブホルダー



用途	サイズ	A	B	C	R
50, 75, 100排水用	75 (排水用)	32	93	40	45

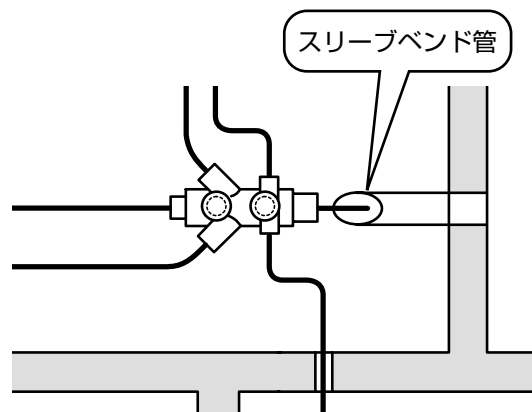
4

取付け前に

⚠️ 注意 スリーブバンド管は、コンクリートへ埋設されますので、施工ミスのないように、細心の注意が必要です。

1 設置位置の確認

配管図にてスリーブバンド管の設置位置を確認してください。



⚠️ 注意



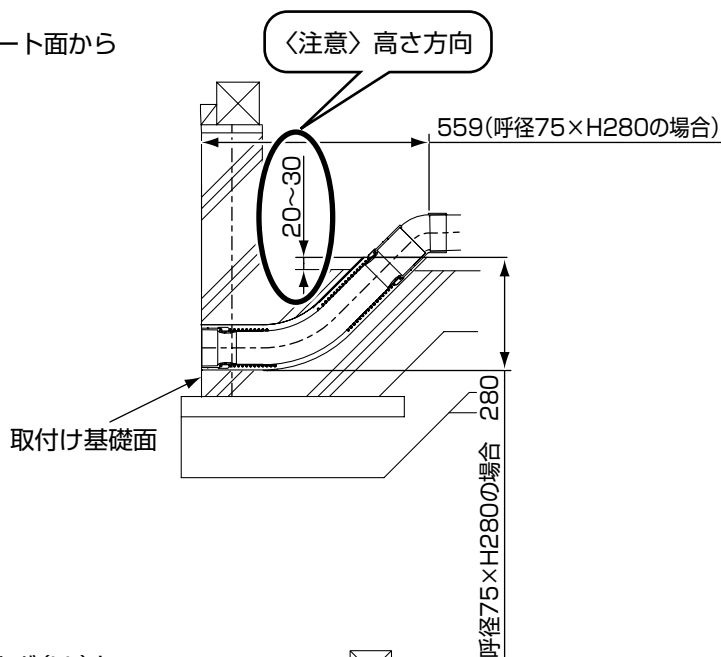
必ず実行

スリーブバンド管設置位置の確認は必ず行ってください。

位置が違くと、排水ヘッダーが取り付けられない場合や、配管の勾配が取れなくなる場合があります。

2 スリーブバンド管の位置決め

コンクリート打設時に、スリーブバンド管がコンクリート面から20~30mm出るように固定します。



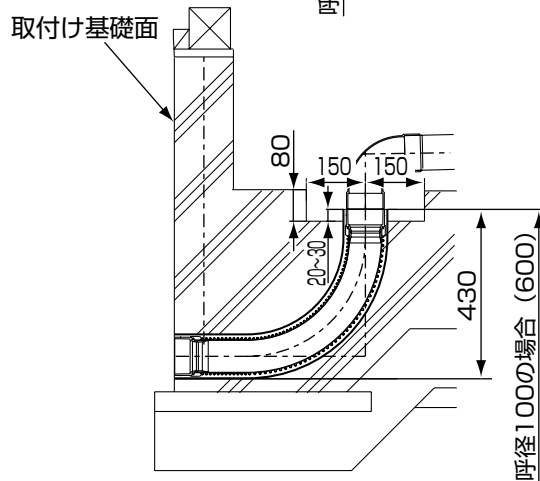
〈深基礎タイプ〉

排水ヘッダーとの接続

呼径75以下の場合、通気確保のため必ず大曲がりエルボ(LL)を使用します。

呼径100の場合、必ず小曲がりエルボ(DL)を使用します。

※裏面 5.2 の【呼径75深基礎用の施工例】をご覧ください。



⚠️ 注意



必ず実行

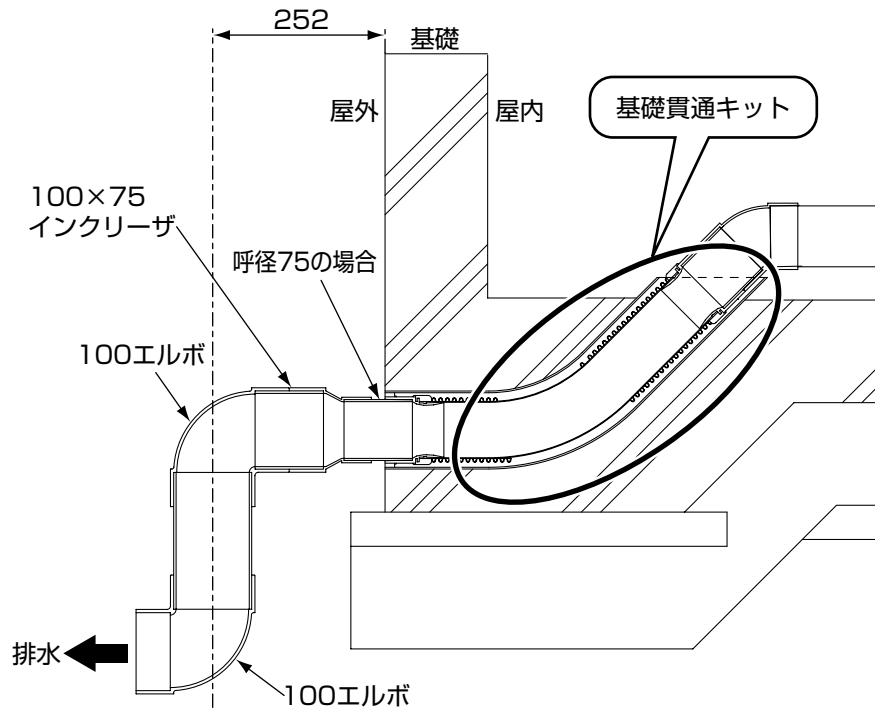
基礎高の低い場合は、配管施工時にエルボを收容するために、スペースを確保してください。

スペースを確保せずに施工すると、排水ヘッダー本体の位置が高くなりすぎ勾配確保が困難になることがあります。

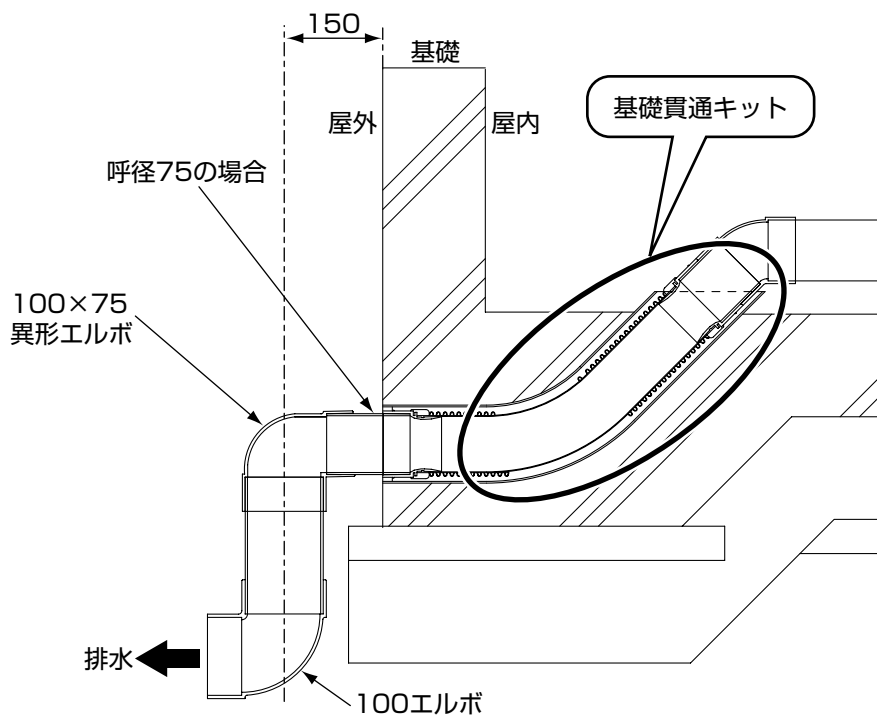
5-1

施工方法

呼径75の場合の施工例
〈インクリーザ使用の場合〉



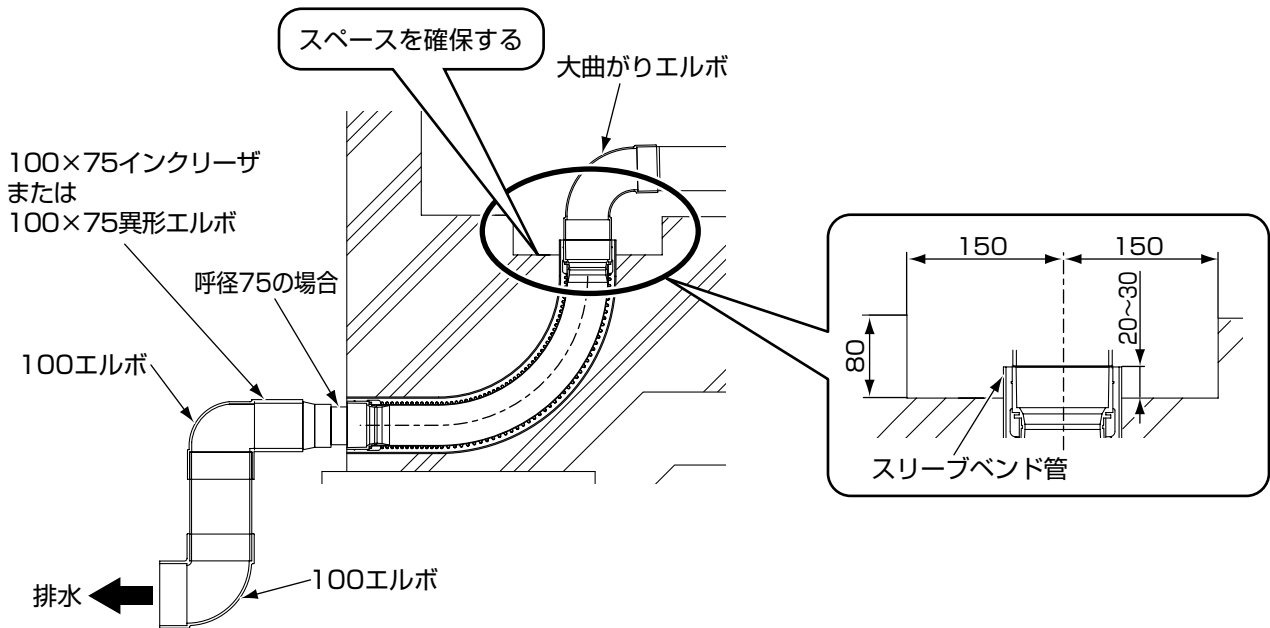
〈異形エルボ使用の場合〉



必ず上記の方法で施工してください。
誘導サイホンにより封水切れが発生するおそれがあります。

呼径75深基礎用の施工例

深基礎を使用する場合は、配管施工時に大曲がりエルボを使用するため、ヘッダー本体の位置が高くなりすぎ、勾配の確保が困難となることがあります。
 そのため、基礎高の低い場合は土間面を掘り下げスペースを確保してください。

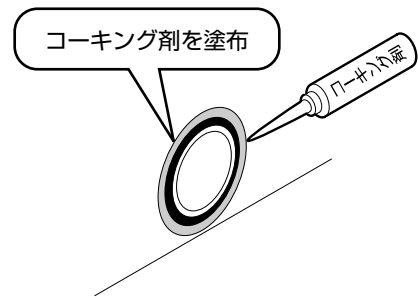


基礎貫通キット施工上の注意点

[基礎面合わせ]
 スリーブバンド管の端面は、取付け基礎面と合っているか確認してください。

[止水処理]
 すき間なくコーキング剤で止水処理してください。

注) 基礎貫通呼径50と75タイプは、スリーブバンド管の屋外側と排水可とう管との間にすき間がありますので、コーキングパッキンを均等にはめ込み、上からコーキング剤で止水処理をしてください。



⚠ 注意



必ず実行

基礎貫通部の止水処理は必ず行ってください。

正しく処理を行わないと、水、シロアリ、害虫などが侵入してくる可能性があります。

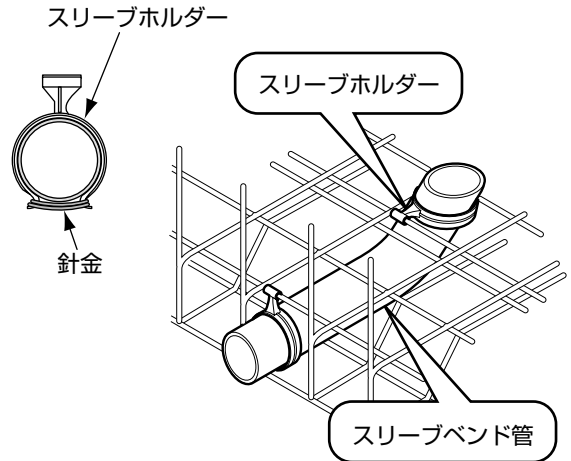
6-1

施工手順 〈スリーブバンド管の設置〉

1 スリーブバンド管の設置

スリーブホルダーにて、鉄筋との離隔距離をとる。

必要に応じて、補強筋を入れてください。
スリーブホルダーと針金を使ってスリーブバンド管を保持し、鉄筋に固定してください。



⚠ 注意



必ず実行

スリーブバンド管の設置時、コンクリート打設により、位置ずれしないよう、しっかり固定してください。

位置ずれしてスリーブバンド管が傾くと、排水ヘッダーが取り付けられない可能性があります。また、商品の性能が発揮されないことがあります。

2 養生テープの貼付け

スリーブバンド管の両端を、養生テープでしっかりふさぐ。

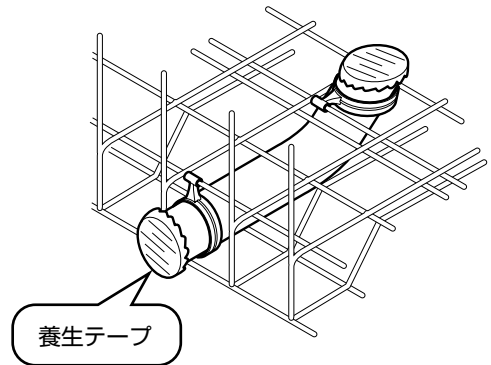
⚠ 注意



必ず実行

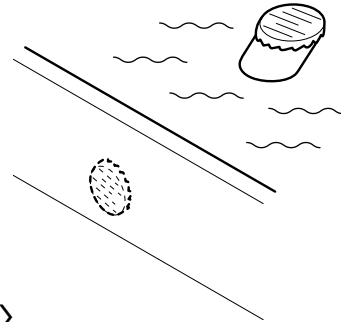
スリーブバンド管の内部にコンクリートが流れ込まないように、養生は確実に行ってください。

コンクリートが内部に流れ込むと、排水可とう管が挿入できなくなることがあります。



3 コンクリートの打設

スリーブバンド管が動かないように注意しながら、コンクリートの打設を行う。



〈コンクリート養生後、コンパクト排水ヘッダーの施工を行います。〉

6-2

施工手順

1 設置位置の確認

配管図にてスリーブバンド管の設置位置を確認する。

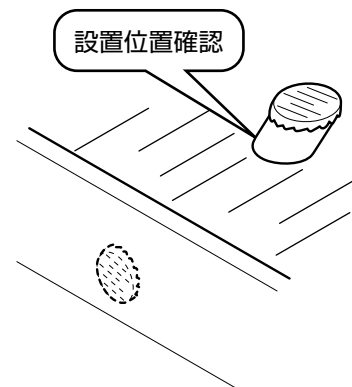
⚠ 注意



必ず実行

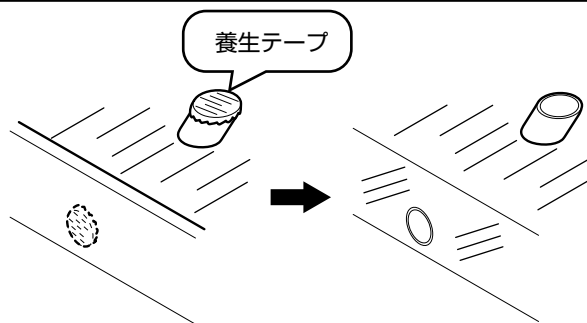
スリーブバンド管設置位置の確認は必ず行ってください。

位置が違うと、排水ヘッダーが取り付けられない場合や、配管の勾配が取れなくなる場合があります。



2 養生テープの取外し

スリーブバンド管の養生テープを取り外す。



⚠ 注意



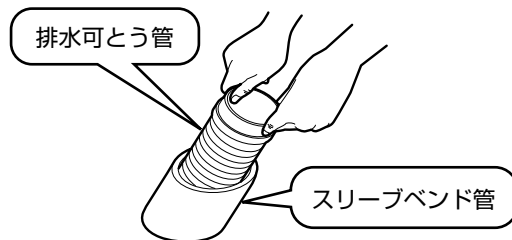
スリーブバンド管内にごみなどが無いことを確認してください。

必ず実行

排水可とう管が通管できなくなることがあります。

3 排水可とう管の挿入

スリーブバンド管に排水可とう管を挿入する。
スムーズに入ることを確認してください。



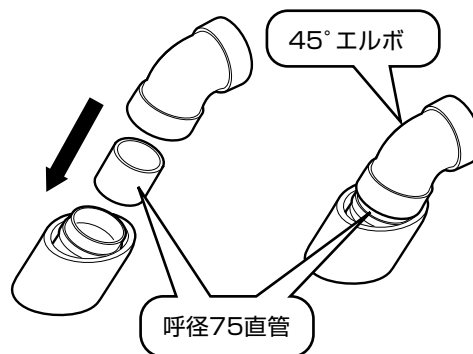
4 エルボの接続

排水可とう管に呼径75長さ80mmの直管を差し込み、45°エルボを接続するかまたは、45°片受けエルボを接着剤で接続する。

深基礎の場合は、呼径75以下では大曲がりエルボを使用してください。

接着剤は、塩ビ配管用接着剤を使用してください。
接着剤の取扱いは、ご使用の接着剤の「使用上の注意」に従ってください。

直管の長さが80mm以上になると配管勾配の確保が困難になることがあります。



5 直管の接続

45°エルボに直管を接着剤で接続する。

呼 径	直管長さ
75	165以上
100	205以上

⚠ 注意



排水ヘッダーと接続する場合は直管を接続してください。

必ず実行

直管接続を行わないと、排水ヘッダーの交換ができなくなる可能性があります。



6 取付け基礎面合わせ

排水可とう管の端面と取付け基礎面(基礎コンクリート)を合わせる。

⚠ 注意



取付け基礎面と排水可とう管の端面を合わせてください。

必ず実行

位置がずれると排水ヘッダーが取り付けられない可能性があります。

